

# 魅力発信！えひめ農業NOW

令和2年3月

## 【お知らせ】

魅力発信！えひめ農業NOWは、県ホームページ(※1)で、県下全地区の内容について、閲覧できます。

※1 掲載場所：ホーム＞仕事・産業・観光＞農業＞農業振興＞愛媛県農業技術情報サービス  
※2 この動向は、3月中に各普及地区から報告のあったものをとりまとめたものです。

～愛媛県農林水産部農業振興局農産園芸課～

〒790-8570

愛媛県松山市一番町4丁目4-2

(TEL) 089-912-2558

(FAX) 089-912-2564

<http://www.pref.ehime.jp/noukei/>

## 「魅力発信！えひめ農業 NOW」（3月分）

### 東予地方局 地域農業育成室

#### ■新居浜市農産物直売所で学校給食応援キャンペーン

- 地域農業育成室は、3月14日から3日間、JA新居浜市と連携し、同JA農産物直売所あかがね市にて、「学校給食応援キャンペーン」による販売で生産者の支援を行った。
- これは、同JA及び出荷農家より、新型コロナウイルス感染拡大防止対策の一斉休校に伴う学校給食の停止により、学校給食用に生産された野菜の販売先の確保が難しいとの相談が同室にあったことから、市内で生産される農産物や地域農業への市民の理解向上を図るチャンスととらえ、同直売所の春まつりで、「学校給食出荷者支援コーナー」を設置し、ニンジンやほうれんそう等の野菜を販売したもの。
- 同ウイルス感染予防のため、餅つき実演販売等を取りやめるなど、各催し物の規模を縮小する予定であったことから、集客等を心配したが、同コーナーは好評で、順調な販売であった。



学校給食応援キャンペーン

### 東予地方局地域農業育成室 四国中央農業指導班

#### ■閉鎖型育苗システムを改良

- 四国中央農業指導班は、普及組織先導型革新事業のうち、野菜等の閉鎖型育苗システムで、①室内空気を循環させるための換気扇の設置、②苗箱の出し入れをよくするための敷板の改良、③苗トレイ内の湿りムラを解消するための波板の設置、④LEDライトの反射効率を上げるためのユポ紙の設置など改良を加えた。
- 同システムの改良により、冬場の育苗方法が改善され、春からの本格的な生産に向けて、生産体制が確立されたことで、生産効率が向上するとともに、育苗管理の均一化が図られ、苗の安定生産が可能となった。また、作業効率もよくなり、従業員の誰もが育苗管理できることが可能になった。
- 同班では、生育や苗質の状況を確認しながら、同システムにより、生産される苗の品質向上と効率的な生産を支援することとしている。



換気扇やユポ紙の設置と給液チューブの改良

## 東予地方局 産地戦略推進室

### ■フラワーアレンジメント講習会で東予の花木をPR

- 産地戦略推進室は3月1日、愛媛県男女共同参画センターで開催された愛媛県フラワー装飾技能士会のフラワーアレンジメント講習会（参加者：20人）に参加。東予地域で栽培された花木をPRした。
- 講習会では、産地戦略推進室が栽培を推進している花木3品目（ピットスポラム、ビブナム・ティナス、メラレウカ）を紹介。さらにフラワーアレンジメントの花材として講師や参加者に使用してもらい、感想や意見等を把握するためにアンケート調査を実施した。
- アンケート調査では、参加者の約90%が栽培圃場見学を希望する意向を示したほか、品目によって使いたい季節の違いや花屋が求める枝の長さ等の意向が把握できた。
- 同室では、この結果を踏まえて新たなPR活動と生産振興に取り組んでいく。



東予花材を使用した講師作品



作品を作る参加者

## 東予地方局今治支局 しまなみ農業指導班

### ■普及指導員が1年間の調査研究成果を生産者へ還元

- しまなみ農業指導班は2月26日、上島町岩城駐在において、しまなみ柑橘研究会第2回研修会を開催し、生産者等60人が出席。
  - 当日は、当指導班が調査研究した、マルチシート被覆を用いた甘平の裂果軽減技術の実証結果を中心に報告。レモンについて、天敵類の活用や耕種的防除などを用いたIPM(総合的病害虫管理)技術<sup>(※1)</sup>を周知したほか、鳥獣害対策や農作業安全等の諸情報も提供。その後、実証圃場へ移動して県オリジナル品種の整枝・剪定を実演した。
  - 出席者からは、近年管内で多発しているミカンサビダニに対して質問があり、高温下では非常に繁殖力が高いため、防除効果の高い薬剤の選択と適切な散布間隔の必要性を指導した。
- ※1 利用可能なすべての防除技術を、経済性を考慮しつつ慎重に検討し、病害虫・雑草の発生増加を抑えるための適切な手段を総合的に講じるもの。



## 東予地方局今治支局 産地戦略推進室

### ■第4回ビブナム・ティナス等花木栽培塾を実施

- 産地戦略推進室は3月9日（陸地部対象）と10日（島しょ部対象）、第4回の花木栽培塾を開催し、生産者27人が参加。
- 当会は、花木の新規生産者等の栽培技術の円滑な習得を目的に、同室が講座形式で開催。ビブナム・ティナス、ピットスポラム、メラレウカの剪定について、普及指導員が現地圃場にて指導を行った。
- 参加者からは、「間近で剪定作業を学び、剪定の重要性がわかった。新梢に光を多く当て充実した枝を作りたい」「年間4回開催された栽培塾を受講したことで、花木の栽培・収穫・枝の出荷調整についての理解が深まったので、より多くのものを出荷できるようにしていきたい」等の意見が聞かれた。
- 来年度は、収穫と剪定の講習をより重点的に行い、収穫量の増大と安定した品質の確保を目指す。



剪定の実演

## 中予地方局 地域農業育成室

### ■確かな一歩、高浜地区復旧モデル園で苗木の植栽始まる

- 県内で最初の改良復旧事例となる松山市高浜地区の復旧モデル園の工事が、本年度中にほぼ完了する見通しとなり、3月中旬から一部園地で、紅まどんな、レモン、伊予柑などの苗木の植栽が始まった。
- 地域農業育成室は中予地方局農村整備課と連携し、今年度、JAえひめ中央や松山市と復旧モデル園のワーキングチーム会を設立。工事の進捗に合わせて、土壌分析や植栽方法の検討などを行うことで、迅速な営農再開を支援してきたところ。
- 3月16日には、知事が現地を視察、生産者を激励した。
- 当室は、今後も関係機関と連携し、土壌分析等を通じて未定植園の営農再開を支援するとともに、定植園の早期成園化や施設化に向けた補助事業の活用などを提案し、モデル園が復興のベンチマークとなるよう支援していく。



紅まどんなを新植した復旧園地



復興に向けて知事が生産者を激励

## ■次世代につなぐ樹園地整備、事業説明会を由良地区で開催

○地域農業育成室は3月9日、松山市興居島由良地区で中予地方局農村整備課、JAえひめ中央、松山市、愛媛県土連と連携し、農地中間管理機構関連農地整備事業による整備園地で営農予定の生産者12名を対象に、事業説明会を開催。園地別に勾配や水路の配置等を検討するとともに、栽培品種や植栽方法等の要望と今後の工事スケジュールを確認した。

○由良地区では本事業を活用し、優良中晩柑の施設栽培を可能とすべく、緩傾斜化による樹園地整備を計画(約7ha、8団地)。その内、約3ha(2団地)では、H30年7月豪雨で大きな被害を受けたため、樹園地の再編復旧を併せて目指している。

○今後、令和3年度に事業採択、測量開始、令和4年度に着工、令和6年度から苗木の定植が可能となる予定。当室は、最適な植栽品種の検討や早期成園化に向けた指導を行い、担い手農家の経営規模拡大や所得向上が図られるよう支援していく。



各園地の整備方策を検討

## ■ユーカリの株枯れ症対策に着手

○管内のユーカリ(12ha)は、全国有数の産地でありながら、苗木定植後2年目から発病する原因不明の株枯れ症の発生により、産地規模の拡大に至っておらず、JA生産部では課題を抱えたままとなっていた。そこで、地域農業育成室は3月6日、JAえひめ中央、JA松山市及び県、松山市の研究・指導機関関係者らを参集し、今後の対応について協議した。

○協議の結果、まずは現状の被害実態を把握するため、生産者へのアンケートを実施するとともに、農林水産研究所と連携して、対策試験圃場の設置及び発病部位のサンプル採集による病原菌特定調査を行うこととした。また、今回は7月にアンケートの集計結果や分析結果をもとに検討を行う予定。

○当室では関係機関団体と連携し、株枯れ症の原因究明と対策技術の確立に加え、苗木の安定供給体制について検討を進め、産地拡大を支援する。



関係者で今後の対応を協議



現地試験圃場を設定し、調査を開始

## 中予地方局地域農業育成室 伊予農業指導班

### ■中山栗プロジェクト会議を開催！次年度活動について検討

○伊予農業指導班は3月12日、中山栗プロジェクト会議を開催。低樹高栽培技術を含めた大玉省力安定生産モデル園の実証結果のほか、JA研修センターと連携した新規就農者の確保活動などの実績を報告した。さらに、次年度活動計画の検討、早期成園化に向け、灌水装置を導入予定の新植モデル園の現地確認を実施した。

○活動計画検討では、安定生産モデル園での実証技術を効率的に波及させるため、剪定請負組織に対し、本プロジェクトへの参画を要請することを決定。

○新植モデル園地の現地確認では、灌水チューブを破損させる小動物への対策が必要との意見から、今後、設置済みのワイヤーメッシュに小動物侵入防止ネットを取り付ける。

○次年度は、安定生産に向けた技術の確立、新規栗栽培啓発パンフレットの作成等を通じた技術の普及を進めるなど、局予算最終年に向けた活動を展開し、産地振興に努める。



新植モデル園の現地確認

## 南予地方局 地域農業育成室

### ■福祉事業所とさといも生産者が農作業マッチング

○地域農業育成室は3月4日、障がい者の就業機会の創出と農業の労働力確保を目的として、宇和島市三間町のさといもの種芋生産農家と障がい者施設「ゆいの里」に対し、種芋の分離・選別の農作業体験によるマッチング支援を実施。13人の施設利用者が生産農家の作業手順の説明を受けながら作業に取り組んだ。

○生産農家にとって出荷時期が決められている種芋は、短期間で分離・選別する必要がある大きな負担となっていたが、施設利用者も作業手順に従い作業をこなしていたことから、生産農家からも「非常に頼りになる。次年度以降も施設と連携して作業をしてもらいたい。」と話していた。

○当室では、引き続き、JAえひめ南農協と連携して、農業分野における労働力確保及び障がい者の就労条件の整備・就労機会拡大に取り組む。



塊から芋1個ずつに分離する



分離した芋はヒゲを取って乾燥

## 南予地方局地域農業育成室 鬼北農業指導班

### ■食用ホオズキの大阪方面への営業活動で販路拡大

- 鬼北農業指導班は3月4日～5日、当管内で地域振興品目として栽培している「食用ホオズキ」の販路拡大を目的に、農家・関係機関2名と、大阪市と神戸市のフランス、イタリア、和食料理の料理店等4店舗において、食用ホオズキの生果と冷凍果実、ドライフルーツの営業活動を行った。
- 新型コロナウイルスの感染拡大から、客足が半分以下になっている飲食店もあるなど、外食産業に想像以上の影響を与えている中、高級和食店と高級フランス料理店の2店舗が、5月から生果について取引したいとの話があった。
- 取引数量、取引条件（価格、発送方法、精算方法）など詳細な部分を打ち合わせるとともに、シェフからはドライフルーツ製造方法への新たな提案や、冷凍果実をコース料理に組入れる方法を検討するなど、加工品についても前向きな営業活動となった。
- 同指導班では、生産技術が確立し、生産量が増加傾向にある食用ホオズキの販路拡大について継続して支援する。



高級和食店（華泉）料理長へ営業



高級フランス料理店（THE GARDEN PLACE 蘇州園）シェフへ営業

## 南予地方局 産地戦略推進室

### ■うめの里の再興に向けて関係者が意識統一

- 産地戦略推進室は3月24日、(株)松野町農林公社において、松野町梅振興会、(株)松野町農林公社、松野町、南予地方局で構成する「うめの里再興検討会」を開催し、今年度の活動結果や次年度の活動計画について協議した。
- 意見交換では、「販売に関するだけでなく栽培についてもアドバイスを受けたい」、「将来のうめ栽培農家やうめのファンを育てる意味でも町内の小中学校と連携した体験学習活動が重要」など、産地の再興に向けた意見が多数出され、関係者が一丸となってビジョンを推進するための意識統一ができた。
- さらに、産地戦略推進室から、新型コロナウイルス感染者が発生した時の対応等に関するガイドライン、食品衛生法の改正について情報提供を行い、今後の情報について注意するよう周知した。



（うめの里再興検討会）

## 八幡浜支局 産地戦略推進室

### ■海外でも認められるかんきつ販売の報告！

- 産地戦略推進室は3月6日、JAにしゅうわ・ブランド戦略課と連携し、台湾向けかんきつ販売反省及びプロモーション販売の報告を行った。
- 当日は、台湾向け輸出果実生産に取り組んできたJAにしゅうわ管内の生産者5名(甘平4名、温州1名)及びJA担当者に対し、ブランド戦略課・産地戦略推進室から台湾での消費動向について報告。  
甘平については、生産者側から下位等級品の輸出拡大の要望が出され、ブランド戦略課に調整を依頼した。
- 当室では令和2年産の海外輸出についても、JA、ブランド戦略課と連携し拡大を図っていく。



台湾での販促報告

### ■フィンガーライムとかんきつの販売活性化に向けて

- 産地戦略推進室は、フィンガーライムをきっかけに他のかんきつ類の販売活性化を図るため、生産者と新たな販売方法を模索しており、3月に、大阪事務所の協力のもと、食の大使館など関西の有名店3店舗のシェフに、フィンガーライムと旬のかんきつとを詰め合わせた箱での商品提案を行った。
- シェフからは、「国産フィンガーライムに注目していた」、「生産者から旬のかんきつとセットで提案してもらえると、多様な料理メニュー展開ができる」との意見を得られ、3店舗ともフィンガーライムを含む多様なかんきつの具体的商談に前向きであった。
- 当室では、大阪事務所等関係機関と連携して、詰合せでの商品提案や飲食店への情報発信など、生産者の取り組みを支援する。また、こうした需要側の反応を生産希望者らにも共有して栽培意欲を喚起し、早期の生産基盤整備に向けた支援を強化する。



提案したフィンガーライムと旬のかんきつをセットにした商品



関西のシェフに商品と産地状況を説明しPR

■■■ 情報の問合せ先一覧表 ■■■

文中略称	正式機関名	所在地および連絡先
東予	東予地方局産業経済部 産業振興課	西条市丹原町池田 1611 TEL:0898-68-7322 FAX:0898-68-3056
四国中央	東予地方局産業経済部 産業振興課地域農業育成室 四国中央農業指導班	四国中央市中之庄町 1684-4 TEL:0896-23-2394 FAX:0896-24-3697
今治	東予地方局産業経済部 今治支局 地域農業育成室・産地戦略推進室	今治市旭町 1-4-9 TEL:0898-23-2570 FAX:0898-22-9724
しまなみ	東予地方局産業経済部 今治支局地域農業育成室 しまなみ農業指導班	今治市伯方町木浦甲 4637-3 TEL:0897-72-2325 FAX:0897-72-1912
中予	中予地方局産業経済部 産業振興課	松山市北持田町 132 TEL:089-909-8762 FAX:089-909-8395
久万高原	中予地方局産業経済部 産業振興課地域農業育成室 久万高原農業指導班	上浮穴郡久万高原町入野 263 TEL:0892-21-0314 FAX:0892-21-2592
伊予	中予地方局産業経済部 産業振興課地域農業育成室 伊予農業指導班	伊予市市場 127-1 TEL:089-982-0477 FAX:089-983-2313
南予	南予地方局産業経済部 産業振興課	宇和島市天神町 7-1 TEL:0895-22-5211 FAX:0895-22-1881
鬼北	南予地方局産業経済部 産業振興課地域農業育成室 鬼北農業指導班	北宇和郡鬼北町興野々1880 TEL:0895-45-0037 FAX:0895-45-3152
愛南	南予地方局産業経済部 産業振興課地域農業育成室 愛南農業指導班	南宇和郡愛南町城辺甲 2420 TEL:0895-72-0149 FAX:0895-73-0319
八幡浜	南予地方局産業経済部 八幡浜支局 地域農業育成室・産地戦略推進室	八幡浜市北浜 1-3-37 TEL:0894-23-0163 FAX:0894-23-1853
大洲	南予地方局産業経済部 八幡浜支局地域農業育成室 大洲農業指導班	大洲市東大洲 174 TEL:0893-24-4125 FAX:0893-24-5284
西予	南予地方局産業経済部 八幡浜支局地域農業育成室 西予農業指導班	西予市宇和町卯之町 3-434 TEL:0894-62-0407 FAX:0894-62-5543